

校長室だより

第5号

発行日 2006年12月13日

発行者 斎藤 滋

来年度入学児童の募集活動が一段落しました。今年は、受験希望の保護者に、志願の動機、家庭の教育方針などを書いて提出してもらいました。その中に、「よい環境の中で、子どもに教育を受けさせたい」という文章が複数ありました。まさに、私立小学校を受験させようと思う保護者の本当の願いなのだろうと思います。桐光学園小学校の教育環境がどの程度理解されているのかは分かりませんが、そういう保護者の期待と願いがあることを、私たちは忘れてはいけないと思っています。

さて、そこにあった「よい環境」とはどういうものなのでしょうか。学校という場合は、子どもが安心して生活することができ、真剣に学習に取り組むことができる場でなければなりません。そして、その環境の中で、子どもたちは多くの仲間や教員と関わり、様々な体験をしながら成長していくことができます。また、その環境とは単に「自然が多い」「校舎がきれい」「グラウンドがきれい」「農園がある」などを指すのではなく、それ以上に、「児童、教師、保護者」という学校に集う「人」の協力と相互理解が図られていることが大切であり、それなくしてよい教育環境は作り得ないものであると考えます。

「協力を得られるようにするためには」

この4月から、校訓（意志・表現・感謝）を子どもたちにも分かりやすくし、日々の活動や行事の際にこの小学校の児童としてしっかりとした目的意識を持つことができるようにしてきたつもりです。まだ不十分な点がありますが、これから数年の間に、子どもたちの活動はさらに充実したものになっていくはずですが、

当然のことながら教員一人ひとりの意識の向上も大切であり、それぞれの行事ごとの目的を全員で話し合い、学校としての統一した考えを持って臨むようにしてきました。ただ、保護者の皆さんにこの目的を十分に伝えることができたかという点ではまだ不十分だったと思います。この傾向は行事についてだけでなく、学校における多くの活動でも見られたのではないかと考えており、今後できる限り改善していきます。

また、保護者の皆さんに十分な情報伝達が行われていない状況のもとでは、保護者と学校の協力の大切さをいくら言葉で訴えても、皆さんは「いったいどうしたらよいのか、何を協力したらいいのか」が分からないのも当然であると思います。学校では、いろいろな行事で皆さんの協力をいただいておりますが、これからは、例えばその行事の委員としての役割がない方にも、その活動の目的をご理解いただいた上で、子どもへの適切な声かけや励ましをしていただくことができるようになることを期待しています。

「子どもへの適切な声かけ」

第3号のたよりで、朝出かける子どもを笑顔で送り出していきたいということを書きました。子どもたちの主な生活の場は学校と家庭です。学校では全力投球の子どもたちは、家に帰ると少しのんびりと体を休めたり家庭でしかできないことに取り組んだりすることになります。計画的に家庭学習にも取り組まなければなりませんので、それほど多くの時間を子どもたちは自由に使えないかもしれません。しかし、どんなに短い時間であっても、子どもたちにとって、家族の温かい愛情に包まれながら過ごす時間はとても貴重であり、「明日も頑張ろう」という気持ちにさせることができるものであると考えます。

そういう意味でも、実は子どもへの声かけは実に難しいと言えます。親にしてみれば、学校であったことをいろいろ話してもらいたいでしょ。子どもが自分から話をしてくれないと親の方からいろいろと質問することになるかもしれません。ところが、子どもは自分が積極的に話したいと思うような内容であればそのことについて細かく話すでしょうが、そうでないことについては、断片的なことしか話さないこともあるはずですが。子どもだけではありませんが、自分にとって都合の悪いことはできるだけ話したくないのだろうなということもある程度理解してあげなければならないでしょう。

また、保護者は子どもが学校で楽しく生活しているはずだという前提でいろいろな話を聞くことになると思います。そんなときに、「いじわるなことをされた・した」「たたかれた・たたいた」「いやなことを言われた・言った」「けんかした」(どちらかというともどもは「された」ことの方を強調しがち)などの話があると、それはもう心配になってしまうはずですが。そんなときは、まずはじっくりと話を聞いてあげることが大切です。そして、次に子どもを安心させるようにしましょう。自分の子どもの言うことだけを聞いて原因を決めつけることは避けなければなりません。まずは保護者なりの考えを子どもに伝えることが必要であると思います。絶対にあってはならないのは、ますます子どもを不安にさせてしまうことです。どんな言葉が子どもを不安にさせるかという、「あの子は悪い子だから一緒に遊んではいけません」に代表されるような、親の一方的な思い込みで、子どもたちの関係を断ち切るようなことを強要してしまうような言葉です。

子どもの世界では、トラブルがあっても翌日にはお互いにスッキリし、何事もなかったかのようにして楽しく過ごすことも多いので、少し様子を見てもらうことも必要です。学校への連絡や相談をいただくことはありがたいですが、その対応については学校を信頼していただき、その判断に任せていただきます。

1月のグループ討論会は、23日、30日の10:30~12:00に行います。